

第 103 回実践勉強会 実施レポート

平成 31 年 1 月 16 日 大田文化の森 多目的室
共催 中外製薬

参加者 59 名
特別講演

「小児血液疾患について」

東邦大学医療センター大森病院 小児科 准教授 高橋浩之 先生

【質問①】

抗がん剤治療などを施行されている免疫抑制状態の患者さんが、ご自宅に戻られたあとの生活環境の注意点について何点か質問をさせて頂きたい。生ものを食べていいのか（各施設で半々くらいに分かれていると聞いている）また、ペット・観葉植物・ぬいぐるみなどからの感染症のリスクについてはどのようにご説明されているのか伺いたい。

【回答①】

基本的にはなるべく制限はしたくないとは考えている。しかしながら、制限をかけているものがいくつかあります。まず生もの。特にお刺身です。お寿司屋さんに行った際は玉子、あとは加熱されている肉類の寿司は食べていいと説明しています。動物に関してはもともと飼っていたものは問題なく、動物園に行くことに関しても問題ないが、触ってはいけないと説明しています。泥んこ遊びについては、土の中に土壌菌がいる為、イモ堀りなどは禁止しています。ぬいぐるみ・観葉植物に関しては制限をしていません。生野菜も問題ありませんが、果物の中で皮を剥かずに食べるもの、つまりいちごに関しては制限をしております。

【質問②】

白血病・血友病など遺伝的に関係のある疾患に対して、染色体・DNA を調べて子供がこれらの病気になる・ならないか調べる研究などが進んでいたり、実際されているのか。

【回答②】

非常に難しい問題であります。命の選別につながる問題と考えており、最近ではダウン症候群を母親の血液を調べれば分かるなど、研究は進んでいます。今の技術を用いれば鑑別することは可能であると考えますが、しかしながら、倫理的観点からも実際に応用されていくかどうかは難しい問題と考えます。